



イエス団報

Jesus band news

2011/03/28

13

再刊 13号

- ミッションステートメント 2009 について
- リレー原稿
理事 黒田道郎牧師
支援センターあいりん 太田正人
- 施設紹介
二宮児童館
友愛幼稚園 学童保育
四貫島友隣館 子どもの家事業
- 研修報告
新任職員研修会
ブラッシュアップ研修会
リーダーシップ養成研修会
- 大集会実行委員会後継委員会の
J.B.Fellows 報告 小川真奈
- 東日本大震災・東北地方太平洋沖地震
募金および救援活動ご協力のお願い

発行：2011年3月28日

発行者：村山盛嗣

編集・発行：

社会福祉法人・学校法人 イエス団

〒651-0076

兵庫県神戸市中央区吾妻通 5-2-20

TEL：078-221-9565

FAX：078-221-9566

<http://www.jesusband.jp>

ミッションステートメント

2009



(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)



(7)



(8)



(9)



(10)



(11)



(12)

(1)いのちの不思議：蛹化《甲子園二葉幼稚園》 (2)賀川献身 100 年を覚えて、2008 年の創立 50 周年に「子どもの権利」モニュメントを設置 (3)デマンド装置設置で CO2 削減をチェック (4)中央 3 人 タイのチェンマイ・チェンライから環境教育の専門家来園。(国際理科、平和教育の学び) (M. S. 2009 の全項目に該当) (5)地球温暖化、CO2 削減のための太陽光パネル。LED 電灯 W エコ電灯に 3 年かけて切り替えた。命と自然が大切にされる社会のため CO2 を 30%削減に成功!! 《以上神視保育園》
(6)「ねえねえ! ああね…」 (7) (8) 《以上杉の子保育園》 (9) (10) eco 孫爺で浜辺の清掃ボランティア (11) エコキャップ運動：今年度は 15 人分のポリオワクチン相当を送りました。 (12) eco 孫爺で一緒にクッキー作り 《以上愛之園保育園》

「ミッションステートメント2009」にこだわり続ける！



社会福祉法人イエス団 常務理事
イエス団理念委員会委員長
愛隣デイサービスセンター
空の鳥幼稚園 施設長

平田 義

はじめに

「ミッションステートメント2009」（以下MS2009）は「賀川豊彦献身100年」を記念して、2009年12月24日に策定されました。この「MS2009」に基づき、皆さまの施設におきましても、写真にありますように、様々な取り組みがなされていることと思います。

今号では、皆さまよくご存知の「MS2009」ですが、策定に至るまでの経緯を説明いたします。是非ともご一読いただき、そこに込められた「思い」を共有していただき、「MS2009」にこだわり続ける働きを押しすすめてもらいたいと願っております。

「イエス団憲章」から「ミッションステートメント」へ

2007年5月10日に行われました、第1回理念委員会において、「賀川豊彦100年記念事業」の一環として、イエス団の「ミッションステートメント」を策定することが決議されました。

その当時、イエス団には、1999年の賀川豊彦献身90年に制定された、法人の基本理念を表す「イエス団憲章」がすでに存在していました。「イエス団憲章」があるにもかかわらず、「ミッションステートメント」を策定する意味はどこにあるのか、「イエス団憲章」とこれから策定しようとしている「ミッションステートメント」との違いは何なのかについて討議をいたしました。そこで考えたことは、まず「イエス団憲章」が各施設において、どのように位置づけられ、内容がどこまで浸透しているのか。また、新たに策定する「ミッションステートメント」に入れるべき内容はどのようなものか。などについて、各職員向けにアンケート調査を実施することでした。このアンケートを実施する意味は、新たに策定される「ミッションステートメント」が、イエス団に連なる職員の「思い」が表されるものにしていきたいという願いがあったのです。

30施設の417名の職員から回答をいただきました。

「イエス団憲章」の存在については浸透していましたが、内容については「言葉が難しい」「わかりにくい表現がある」との意見がありました。

「ミッションステートメント」策定へ

そのアンケート結果を受けて、施設長会議において、「ミッションステートメント」の一定の方向性が確認されました。

- ①文言はわかりやすいものにする
 - ②宣言は内部職員に向けてではなく、外部に向けて私たちの思いを発信するものにする
 - ③各職員が内容をよく理解し、具体的な行動を起こしていけるものにする
 - ④各施設の5ヶ年計画に反映していく
- この方針に従い、文案を作成し、各職員からの意見を聞き、策定されたものが「ミッションステートメント2009」です。

私たちの「思い」

2010年1月30日に行われました「賀川豊彦献身100年記念事業～イエス団大集会」のパンフレットには、「MS2009」に対する私たちの「思い」が、以下のよう

に記されています。

1999年の賀川豊彦献身90年に制定された「イエス団憲章」は、法人の基本理念を表すものとして位置づけられています。その後、賀川豊彦献身100年を契機に、イエス団の歴史的検証も含め、これからの時代のニーズや課題に即しながら、イエス団の自己理解と使命を再確認するために、「イエス団憲章」に加え、新たにミッションステートメントを策定することとしました。

賀川豊彦献身100年を迎える今、「ミッションステートメント2009」を策定することにより、今後、法人としての使命、すなわち具体的な方針を明らかにします。

そして、この「ミッションステートメント2009」に基づき、各地域において私たちが誰と共に、何を目指して、どのように実践していくかという行動計画を建て、具体的に実践していきます。

この「ミッションステートメント2009」を策定するにあたり大切に考えたことは、賀川の過ちも含めて、過去の歴史を検証すること。また、イエスに倣った賀川の働きを継承していくこと。そして、私たちもまたイエスに倣って生きることです。

「MS2009」にこだわり続ける

このような経緯で策定された「MS2009」です。

お分かりのように、単に法人が策定したものではありません。その当時の職員と共に考え、つくりあげられたものなのです。ですので、ただ掲げられているのではなく、これをどのように、日々の働きの中で活かしていけるのかが大切なのです。様々な企画を考える際、また困難にぶつかった時に、この「MS2009」に立ち返り、こだわり続けて歩んでいっていただきたいと願っております。

イエス団の輪っ

社会福祉法人・学校法人イエス団

理事 黒田 道郎牧師

教会という狭い世界に身を置いてきた者にとって、イエス団理事の責任はずしりと重いものであることを痛感しています。理事会に初めて出席した時に驚いたのは、予算規模の大きさでした。ゼロがいくつも並んでいる資料に面食らった上に、各施設の運営は項目によっては、理事会の承認決議が必要とのこと。もし賛成した後、問題が発覚して理事の責任を問われても負いきれない不安を覚えました。当時は各施設が自立して運営に臨み、法人に迷惑をかけないとの信頼の上に理事会が機能していました。しかし就任早々、大事な信頼関係が損なわれる事態を経験し、なんとかしなければという思いだけで、今日まで理事を務めてきました。と言っても私にできることは、会議の進め方と、決議の重んじ方を貫くことだけです。出席することだけに意義を置いてきました。まだまだ知らないことだらけで、身を縮めています。

イエス団は世代交代や社会の変化に伴い、今後ますます新しい体制作りが急務となります。その時これから自分のことを考えますと、やっぱりできないことが多すぎますが、牧師として神に召されていると確信している者として、賀川先生の信仰の部分をしっかり継承していくために貢献できればと思っています。1952年生まれの私は、賀川先生の姿を直接目撃した最後の世代になります。先生が四国伝道の途中で病に倒れ、高松市内の病院で療養されていた時に、母に連れられて弟と一緒におい舞いしたのが最後の会見でした。会見といっても小学2～3年の子どもでしたので、弱々しく寝ておられるお姿と、曇天の重くらしい空気だけが記憶に残っています。

賀川先生のことは祖父四郎からよく聞きました。晩年の説教も、聖書のメッセージの締めくくりに必ず先生のエピソードが付きまして。身内として（またか）と呆れつつ、しかしいつも新しいネタを披露したのに感心させられました。まさに偉人といえようのない先生の生涯ですが、2回の全国伝道旅行に同伴した祖父の目には、神を真剣かつ素朴に信じ貫いた一人の信仰者の姿が映っていたようです。賀川先生ご自身が神に愛されていることを知り、信仰を与えられたことからすべてが始まりました。私も先生を通して、幼な子のように神さまを信頼し、神に用いられるままに、神が喜ぶことを求めて歩みたいと願うようになりました。

イエス団も賀川精神を受け継ぐ上で、信仰がすべての土台にならなければ立ちゆかないことは言うまでもありません。信仰の分野で私の働きが求められると自覚しています。理事会は祈りをもって始め、祈りをもって終わります。各施設においては職員の方々にキリスト教信仰を理解していただくことが重要な課題です。また教会と共に、車の両輪のように同時に回転しながら、神の愛を伝えていくことが求められます。このことも私には荷が重すぎるのですが、神さまの命令ならば、神さまがなんとかしてくださると信じています。イエス団がいつも神を中心にし、互いに信頼し合える関係を構築しながら、共に歩んで



「イエス団の輪っ」と題しまして、今回から始まるリレー形式での投稿。理事・評議員さんからおひと方、一般職員からおひと方ずつ寄稿していただきます。

第1回目は編集委員の独断で、理事の黒田道郎牧師と障がい者地域生活支援センターあいらんの相談員の太田正人さんをお願いいたしました。

いくことを目指していきましょう。原稿を閉じるにあたり、リレー原稿の次号の書き手を指名する企画に悩みつつ、私が今一番興味を持っている水野雄二さんにバトンタッチしたいと思います。多忙な毎日でしょうがお願いします。

京都市南部障がい者地域生活支援センターあいらん

相談員 太田 正人

おおたまさと（太田正人）です。今回、「イエス団の輪」のコーナーで職員のトップバッターとして登場することになりました。このコーナーは最後に誰かを指名してその人が次号の原稿を書くことになる



そうです。早速、次の人を決めました。「高橋成就」さんです。「たかはし・・・」読めませんよね。「なりつぐ」と読みます。大阪のガーデン天使で働いておられます。知り合ったのは、この前11月のリーダーシップ養成研修です。

しかし、実は成就さんもまだ知らないと思いますが、彼の妹さんとは約20年位前からの知り合いです。まさか兄妹とは・・・驚きです。今度ゆっくり飲みましょう。

さて、このコーナーがいつまで続くのかわかりません。イエス団報が今のペースで同じく年1回しか発行されないとすると、イエス団の職員が約700人位いるから、全員にまわるのは・・・。「一体それまでだれが生きてんねん」。宇宙戦艦ヤマトが向かったイスカンダル星（地球から14万8千光年）にも対抗しうる夢とロマンであります。

前置きはこれぐらいにしておきます。僕は、イエス団に入ってから（当時はそんな意識もなく、愛隣館に）今年で16年目になります。大学卒後の4年間は福祉とは全く関係のないところで仕事をしていました。だから資格も知識もありませんでした。ただ、せっかくやるならまず自分が楽しいと思えることをしたいと思っていただけでした。最初の約三年間は入浴担当者。自宅でお風呂に入るのが困難な重度の障がいのある方と一緒に風呂に入っていました。僕自身もお風呂が好きで、お風呂は単に体を清潔にするという意味だけではない。湯船に浸かった瞬間は、誰もが「ふはあ～」と体全体から自然に声が聞こえてくる至福の瞬間であるはず。入浴サービスではなく、自宅でお風呂でありたいと、入られる一人一人の方の時間を大切にしたいと思っていました。

その後3年間は知的と身体両方に障がいのある方と日中過ごすデイサービスと障がいのある子どもたちと過ごしました。知的と身体に障がいのある方を「重症心身障がい児・者」と言います。この言葉だけでびびってしまいました。言葉でコミュニケーションが取ることが困難。僕にとっては当たり前の、息をすることや食事を摂ることも難しい人たち。何もかもわからないことばかりでした。自分にできることは何か？というより自分は何ができる

のか？と考えさせられました。本を読んだり研修にも参加しました。参加した研修の中で今でも、忘れられない言葉があります。『ケア（Care）は日本語で介護と訳されている。しかし、この本来の意味合いは Love に近い。僕等は介護だからといって、無条件で相手の体に触れている。普通相手の同意無しに体に触れることはセクハラ行為である。それを無条件で許されているその重みを知らないといけない。』『今、目の前にいる人たち（重症心身障がい児・者）の一番良い状態が正に今この瞬間である』

今も、相談員としていろんな障がいのある人たちとの出会いがあります。一つ一つの出会いが自分にとって大切なものです。

施設紹介

二宮児童館

〒651-0093 神戸市中央区二宮町 1-3-2

TEL:078-242-6411 FAX:078-242-6411

二宮児童館は、地域社会の余暇指導のためのレクリエーションの場として、また児童の文化的、知的活動の場として児童福祉法40条に基づき、設立された児童厚生施設です。設置主体は神戸市、運営主体は社会福祉法人イエス団です。児童館運営委員会は地域のふれあいのまちづくり協議会の委員長や婦人会会長、児童委員、民生委員、小中学校校長・PTAの会長、中央区の担当、社会福祉協議会の担当の方々と組織されています。



事業は、子育て支援事業として、すこやかクラブ、キッズクラブ（2、3、4歳児と保護者）、なかよしひろば、よちよちサークル（0、1歳児と保護者）、子育てコミュニティ（日曜開放）、子育て相談、また児童館カフェ（異世代間交流）、日本語ひろば（外国人支援）、学童保育クラブ、児童館来館者への遊びの提供、地域との連携など多様なプログラムを提供しています。特に児童館カフェは地域のみなさんにご協力いただき、高齢者や親子がカフェに集い、異世代交流や地域の親睦を深めるプログラムとして年間のべ750名以上の方々が来館されています。二宮児童館の開館は1980年11月ですが、2004年4月から社会福祉法人イエス団が指定管理者として運営を行ってきました。2003年11月26日に行われた社会福祉法人イエス団理事会の議事録には、委託運営の決議とともに当時の理事長今井先生からの「法にのっとった施設を増やすことでよいのか、法以外のことはどう考えていくのか、イエス団として将来的にどのように考えてい

制度やその時正しいと言われていることが、変わっていくことは歴史を振り返れば明らかです。そんなものに振り回されず、こんな時代だからこそ、拠り所となる理念が大切です。ミッションステートメント2009は、当たり前のことが書かれているだけです。しかし、その当たり前のことが当たり前でなくなってしまったから、そこに立ち返ることが大切なのです。しかも、イエス団大集会を経て、このミッションステートメント2009があることで、今まで感じなかったイエス団の多くの仲間たちとの繋がりをより強く感じています。いろんな現場でみんながそれぞれがんばっているんだ。 ありがとう。

くのか。そのようなポリシーメイキングをしていくことが大切である」という発言が記録されています。



私たちは、二宮児童館は賀川先生が人格交流運動として始めたセツルメントの精神を継承する施設としての認識を持ち、活動を行ってきました。地域に根をはった地道な活動を展開し、外に向けてオープンであることや子どもを中心にした事業展開のなかで、本当に地域のみなさんと協力し、地域のなかに入り込んだいい働きをしていると思います。制度上の施設ですが、いろいろなチャレンジをしていける施設でもあると思います。今井先生の言われた「法にのっとった」施設としての活動ではありませんが、「法以外のこと」をも見つけていける施設としてあり続けたいと思っています。



学童保育のお餅つき ついて、丸めて試食！

友愛幼稚園 学童保育

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通 5-2-20 (賀川記念館内)

TEL:078-231-5818 FAX:078-231-2891

神戸市中央区、三ノ宮にほど近い賀川記念館内にある学童保育です。2009年12月に建て替わった新館で気持ちよく過ごしています。現在、1年生から4年生までの25名。わんぱくで元気いっぱいの子供たち。夏には六甲山で一泊二日のキャンプ、プールあそび、春と秋には遠足、クッキング、冬にはクリスマス会、おもちつきなど、盛りだくさんな活動を楽しんでいます。

同じ館内にある「友愛幼稚園」(保育園)の園児や「くじらぐも」(障がいを持つ中・高生)のお兄さんお姉さん達と触れ合う中で、思いやりの気持ちを大切にできたら、と願っています。



新館の前でハイ・ポーズ！



キャンプでカヌーに挑戦。力を合わせて、いち・に・いち・に・・・。



楽しかったクリスマス会。「グローリア」「ひいらぎかざろう」をドイツ語で歌いました。うーん、難しい！

四貫島友隣館 子どもの家事業

〒554-0022 大阪市此花区春日出中 1-15-13

TEL:06-6461-3713 FAX:06-6462-1072

① 豆つかみ

みんなで豆つかみの競争だ～！
誰が一番多くつかめるかな？



② 写生会

年二回(春、秋)に大阪市の各所で写生をしています。
これらの作品は11月の文化祭にて展示・発表しています。
2010年度は天保山と南港野鳥園に行きました。



③ 陶芸教室

世界に一つだけのお皿をつくろう！
自分たちで形を決め、絵も描いたよ！
できあがり子どもたちも大満足！



2010年度の研修を振り返って

報告:企画委員会研修チーム チーフ 田村三佳子

2010年度の研修は、企画委員会の研修チームが企画・担当しました。

スタッフは企画委員として、石原正彦(豊島神愛館)・今村優二(杉の子保育園)・太田正人(あいりん)・岡山泰典(天隣乳児保育園)・小川真奈(ガーデン天使)・木村耕(ぶどうの木保育園)・田村三佳子(甲子園二葉幼稚園)。そして、本部事務局から中田一夫・好崎志保と10月から真下謙が加わっての計10名です。

年間テーマ:「ミッションステートメント2009の理解を深める」
「実践に向けイエス団職員として求められるもの」

このテーマのもと、「参加者が自ら学び、感じ、実践に向けての準備ができること」そのために何が出来るのだろうかとのディスカッションにディスカッションを重ね準備しました。まさにそれがスタッフ自身の研修となりました。そういう意味でも今年度は、「次の100年に向かって大きく一歩踏み出した研修」と言っても過言ではないと思っています。

ブラッシュアップ研修は、六甲山YMCAにて川中大輔氏(シチズンシップ共育企画)のワークショップを中心に行われ、参加者は自分を見つめ直し、自分自身のミッションステートメントについて考える良い時を与えられました。この研修には「いのちが大切にされる社会をつくりだす」というテーマが流れていたと思います。中でもぶどうの木保育園の、利用者さんに真に寄り添う姿勢と実践は、私たちに感動とたくさんの示唆を与えてくれました。

また賀川記念館で行われたリーダーシップ養成研修は、真の意味でのリーダー育成を意識して幹部職員研修から名称を変更し、参加者が主体的に関わることができるようなプログラムの構成にしました。

また呉光現氏 聖公会生野センター所長、社会福祉法人評議員を講師にお迎えし、韓国と日本の問題について考えました。何も知らない自分に愕然としたというのが参加者の正直な感想だったと思います。「違いを認め合える社会をつくりだす」そのためには、まず知ることから始めよう。皆の心に小さな灯がともりました。

では、参加されなかった皆さまのために、それぞれの担当者から報告をさせていただきます。



～イエス団職員ブラッシュアップ研修会～

報告:企画委員会研修チーム 担当:木村 耕

- 目的 1)「ミッションステートメント」に対する自己評価
2)現場での体験を出し合い、共有する。
3)今の自分を見つめ、これからの課題を探る。
4)「イエス団で働くこと」の意味を理解し、深める。

日時 2010年8月28日(土)12:00~29日(日)16:30

場所 六甲山YMCA 神戸市灘区六甲山町北六甲875

講師 川中 大輔先生(シチズンシップ共育企画代表・ファシリテーター)

平田 義(常務理事、愛隣デイサービスセンター施設長、イエス団理念委員会委員長)

木村 耕(ぶどうの木保育園園長)



1日目(28日)

- ・セッションⅠ 『これまで』のわたしと仕事を振り返る。気付きと学びを探る。
- ・セッションⅡ 「キリスト教理解」テーマ「いのち」を聞く。“心に響いた”“じっくりこない”“疑問や質問”“その他、感じたこと”をポストイットにメモしながら共有する。
- ・セッションⅢ 「キリスト教理解の振り返り」グループで分かち合った後、グループごとの発表。
- ・キャンプファイヤー(カウンセルファイヤー)個々に抱えている課題別にグループで分かち合う。

2日目(29日)

- ・朝のつどい 歌集「わたしはろばの子」「ヌチドウタカラ」「主につくられたわたし」全9曲
- ・セッションⅣ 「イエス団理解」(ミッションステートメント)テーマ「隣人愛」(迷える子羊)
- ・セッションⅤ 『これから』のわたしと仕事 私が今、職場や社会において期待されていることは? ミッションステートメント作成。発表。ファシリテーター川中先生よりメッセージ。
- ・閉会礼拝 平田先生 お話 祈禱。

参加者事後アンケートから

- ・「セッションⅠ、Ⅲ」

日々流され、ただなんとなく仕事に従事していることに気付かされた。いろいろな人の想いが聞け、感心し共感できた。／普段なかなか腰

をすえて向き合うことの少ないこと、自分自身の事、いのち、平和について等とじっくり向き合い、自分でも出来ることもあると



言う事を知らされた。

・「セッションⅡ」―命の大切さについて、子どもたちに伝えていく方法がたくさんあり実践していきたい。／命について、隣人に対して出来ること、できないことを自分で線引きしていることに気付かされた。／命と命のつながりは出会いからあり！！出合った事に感謝し、共生していく。



参加者とスタッフ

～リーダーシップ養成研修会～

報告：企画委員会研修チーム 担当：太田正人

この研修はこれまでは幹部職員研修という名称でおこなわれておりました。それを今回から「リーダーシップ養成研修」と変更しました。何故か？

そもそも幹部職員という位置付けが非常に不明確で、この研修を受けて実際施設長になった人間がいるの？この研修を受けた後はどうなるの？イエス団には全職員向けの研修が3つあります。御存知の通り「新任職員研修」、「ブラッシュアップ研修」、「幹部職員研修」。新任研修は、まさしくこれから法人で働いていこうとする職員。ブラッシュアップは、3～5年働いて今一度、自分の働きを問い直すもの。対象と目的がはっきりしています。

そのために「リーダーシップ養成研修」という名称でその案内にも以下のように参加を呼び掛けました。

『次世代のリーダーを育成する機会の第一歩としたいと考えています。「施設長から参加するように言われたから」「年数だけは経っているので」「順番で私が来ました」といった参加者ではなく、積極的にイエス団の職員として今後どう成長したいのかを考えたいと思っている職員を求めます。』

研修の中身においても、保育・障がい・高齢・幼稚園、それぞれの現場から「事例発表」をしていただきました。また、自らの経験を通して「キリスト教と私」について語ってもらいました。このように研修参加者が受け身ではなく、グループワークを通じて主体的にそれぞれが関わって貰えるような研修でした。

基調講演においては呉光現さんを講師に招いての『「イエス団で働くという事＝歴史に働く神と共に」～視点を変える、視点が変わる。そして私たちが変わる～』というテーマでした。

「知らないこと、知らされてないこと」。それは日韓の歴史だけのことでなく、沖縄の基地問題や様々な社会問題においても言えることです。知らなくても不自由無くやってきた自分達

との接点をどう感じ、どのように持つのか？を問われているのだと思います。僕自身にも突き付けられた大きなテーマだったと思います。そのことは、ちょうど白波瀬佐和子著の『生き方の不平等』の中で「社会的想像力」ということばで以下のように語られていることにも通じるのではないかと思います。

『「自分」でない他者を認識することは、自分を理解することにも通じます。実際に当事者になりえない状況で、自分でない「当事者」を思いやり、共に社会の構成員として社会の諸問題を共有する意味はきわめて大きいのです。共に支え、共に助ける社会にむけてのキー概念となるのは、他でもない「他者感覚」です。われわれ一人ひとりが直接的、間接的に社会の不平等問題にかかわるためには、他者感覚という社会的想像力を研ぎ澄ますしかありません。(中略)他者を他者とし、当事者でないことの限界を感じつつ、他人ごととしてでなく、社会の問題をとらえようとする。これこそが、実はいま、われわれに切に求められている社会的想像力なのではないでしょうか。』

「リーダーシップ養成研修」に参加すると、当たり前ですがすぐさま、リーダーとして大活躍出来るわけではありません。また、そんなスーパーマンになれる養成研修なんてどこにもありません。2日間の研修の中で学びがあるのではないと思います。本当の学びは日常的にまわりに無数あって、それに気付かされるきっかけが与えられるのが研修なんだと思います。



賀川記念館4階チャペルで行われた研修ワークショップの一場面

報告ありがとうございました。

この二つの研修を通して、私たちはイエス団の職員として繋がっているということを再確認し、悩んでいたこのことはあの施設のあの人に相談してみようと思える仲間がいることを感じる事ができました。私たちスタッフもそれぞれに何かの役割を担い、自分自身を再発見すると共にリーダーとしての自覚を新たにすることができたように思います。今後も更に、良い学びの場を提供することができればと研修チームスタッフ一同、心から願っています。

尚、新任研修は、3月24日～25日の日程で、六甲山YMCAで行われる予定です。乞うご期待！



東日本大震災
東北地方太平洋沖地震
募金及び救援活動ご協力をお願い

2010年1月30日(土)にイエス団大集会を開催してから、早1年が経ちました。私たちはその後あのまま火を絶やすのではなく、次へとステップを踏む為に実行委員として再度集められました。久しぶりの再会でしたが、お互いを信じ合った関係はそのまま、同志に再会できたことに皆とても喜びました。また、委員は新たな職員も加わり、新鮮な空気が流れることも期待しています。こうした経緯から私たちはまた真っ白の状態からあの熱い気持ちをどうやって繋げていくべきか悩み、牛歩ながらもそれでもなんとか前に進もうとしています。

昨年7月からイエス団職員としての繋がりや、MS2009の達成に向けて各施設や職員の思いを拾いあげ、それを基に企画をどう行っていくのかを目的として話し合いが始まりました。次の私たちの目標を何にすることが一番望ましいのか、ブロック毎にまずは企画や計画を実行していくべきかどうか、また大集会後のアンケートで運動会のような各施設が交流できることをしたいという多数の要望をどのように実現したらよいかなど話し合いました。

そして「顔が見える関係づくり」をコーディネートしていくという目標を立て、ブロック毎の活動に重点をおくことが望ましいのではという結論に達し、先日の久しぶりの集会では、各ブロックの活動報告を行いました。それぞれブロック毎の特徴を活かしながら行った活動や検討課題を発表し、お互いに刺激を貰い、次への活動のヒントを得ることができたことも前進です。また、大集会が終わった今、実行委員の立場がはっきりしない状況でいろいろなことを決めていくことの不具合や困難があり、なかなか話が具体化せず、施設長の皆様には報告もままならない状況で一体何のために集まっているのかという疑問を持たれた方もおられたかもしれません。そういった経緯も含め、イエス団ではこの集会を法人の各種委員会として位置付けていく方向にあるということを確認しました。

そして今までの思いを乗せ、新たにJ.B.Fellows(ジェイビーフェローズ)として2011年5月に各施設に専任者を出してもらい、

- ①施設職員の顔合わせ・関係作り
- ②これまでの流れの確認
- ③目的の説明
- ④ブロック毎の活動の今後を協議
- ⑤活動状況を2012年2月に報告

を行い、次年度にどう繋げていくかの議題提案を決める。

また、各ブロック代表が主となりブロックを引っ張ることで、計画や案が見える形に実現させていくことを決定しました。

5月には選任され、新たな方向に向かいますが、私たちは「私たちらしく」を基本に、目的に向かっていくでしょう。過程を大事にしながら、私たちも成長し、各施設の方々から一緒にしたい!との声上がるようなものができたらと、目標を高く持ちながら今後の活動に力を入れていきたいという気持ちは委員一同一つです。その為には施設長を始め、職員皆様のお力が不可欠です。どうぞ今後とも意見等お聞かせいただき、共に活動を盛り上げてくださいますよう、ご協力をお願い申し上げます。

Yes, We can! J.B. Fellows!

被災されている多くの方々の言い尽くせぬ深い悲しみや生活の不安や疲れに対し、神様の癒しと恵みがありますように心よりお祈りいたします

1923年関東大震災の際、その惨状を目の当たりし「神に謝罪を要求する」と祈りもとめたイエス団創設者の賀川豊彦の姿が思い起こされます。私たちは力を結集し被災者の悲しみや苦しみを少しでも和らげる為に、祈りと可能な限りの支援をしています。かねばなりません。

日本中の様々な団体が被災地の方々のために支援活動を行っています。イエス団においても3月15日法人本部内に「救援対策本部」を立ち上げ募金活動を開始しました。

いただいた募金は、諸団体が発信する様々な支援活動の情報を集約しながら、「ミッションステートメント2009」の理念に従い、特に、子ども、高齢者、障がい(児)者、在日外国人等、社会的弱者に焦点をあて支援活動の為に利用させていただきます。

趣旨ご理解の上ご協力頂きますようお願い申し上げます。

社会福祉法人・学校法人 イエス団

理事長 村山 盛嗣

【募金期間】

●第1次募金期間 3月19日(土)~4月30日(土)

【募金振込先】

●郵便振替口座：01140-8-75472 社会福祉法人イエス団

- * 通信欄に、「東日本大震災支援」と記入のこと
- * 振込手数料は各自負担といたします。
- * 領収書(受け取り)の発行は、振込控えをもって替えさせていただきます。

寄附領収証等の申し出に対しては各施設で対応お願いします。

【募金の現金受付】

京都府・大阪府・奈良県・和歌山県・兵庫県・香川県・徳島県にある35のイエス団の施設においても募金も受付しておりますので、ご協力頂きますようお願いいたします。

【問い合わせ先】

〒651-0076 神戸市中央区吾妻通5-2-20 賀川記念館3F
TEL: 078-221-9565 FAX: 078-221-9566

イエス団「救援対策本部」

編集後記

2011年3月11日に発生した東日本大震災で被災されている多くの方々、特に家族を失い悲しみにあるの方々、消息が分からず不安な中にあるの方々、困難な中で避難生活を送っているの方々の上に、また、特に災害の時に弱者となる子どもや高齢者、障がいをお持ちの方、在住外国人などの方々の上に、神様の励ましと慰めがあることを心よりお祈りいたします。イエス団に連なる多くの方々のご理解とご協力をいただき、イエス団報13号を発行することができますことは、大きい喜びであります。次号からは、12月24日の賀川ディに発行していきたいと思っています。どうぞ、今後とも発行への惜しみないご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

イエス団報編集委員会